頼まれました。阿賀野川の改修やら津川の新田開発などの大きな工事も豊助はやりとげました。

安政四年（一八五七年）五月、降ったりやんだりの雨降りの日が続きました。朝から堤防の見まわりに走りまわっていた部下たちが、ずぶぬれになって帰ってきて豊助に無事を報告するころ、雨はあがって日もさしてきました。

二年前の秋の終わりごろ、戸の口用水路を一度見たいという妻のれんの希望で、二人は馬にのって用水路を見てまわりました。猪苗代湖の取入口から用水路に入った水は、やがて野をこえ山をめぐって、一路若松へむけて走るように流れていきます。八田野から滝沢、そして飯盛山の山腹に達した水は、とうとうと音を立てて洞門に吸いこまれていきます。二人は洞門の出口へも行ってみました。水は、洞門から水路をたどりながら若松の城下へ流れ下っていました。

二人が飯盛山から若松の城下をながめたころ短い秋の日は暮れて、しぐれが